

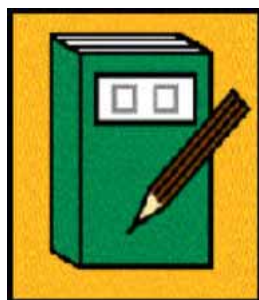
共生・公正・創造



東日本タイムズ号外

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



【『国鉄改革』の完成に向けて】 宗形明著者（高木書房）
～元国鉄労働課長が書いた警鐘乱打の本。著者の視点と分析は見事なまでに鋭く深い。JRの経営陣、管理者にこそ読んでもらいたい。そこで、筆者の了解を得て、そのエキスをダイジェストにまとめ編集してみた。本書の理解をさらに深める意味で活用していただきたい。～

JR東日本ユニオン教育広報部

【虚構からの訣別を図るべき時期に到達したJR東日本！ シリーズ1】

日一日とメッキが剥がれていく「JRの妖怪」その

「JRの妖怪」と称される松崎氏のこれまでの言動や記述を注意してチェックすれば同氏の“本性”や“品性”を感知することは容易である。

労働組合？ JR東労組が大事だ？ 大事なら大事にしてくれ。今日は会社の責任ある人もいるから言っておくけれども、俺は絶対に許さないぞ。絶対に認めないよ。石川尚吾をあそこまで追いやってねえ、涼しい顔をしているような経営陣は絶対に認めないからね。

俺は戦い抜くよ。気が小さいから何も言えないけど（笑）。これは国鉄改革に対する裏切りだよ、JR東労組に対する背信だよ、冗談じゃねえよ、社長以下にちゃんと言っておけ！（02年7月9日 於JR東労組結成15周年記念大会レセプション松崎講演）

<誇り高い松崎氏が心ならずもJR東労組顧問を引辞任せざるを得なくなった「記念大会」における有名な挨拶の中の一節である。労働組合関係一筋できた筆者の長年の業務経験からしても、公開の場で、経営幹部に対するこのような独善的内容の発言、粗野・不遜な言葉遣いをする大労働組合幹部は、わが国ではきわめて珍しい、というより同氏が唯一で、他には絶対いないと思う。>

株主総会までの間に会社が当然、反省をして「悪うございました」と言って来るのが常識なんです。もし「ニアリーイコール論」というのがあって労使協力が会社に認知されているのであれば、起こった事象については「済まなかった」、いわんや嘘をついたことに対して「申し訳ない」と言って来るのは、こんなことはイロハのイの字だ。そういうことをしてこないから、私は9日の二千数百名いる前でやった訳だよ。

「社長に言っておけ！」と。その日の夕刻、社長にも言った。そして10日の慰労会の席でも順法闘争、「組織が半分になってもそのくらいやらなければいけないんだ」と言ったんですよ。（『新塾』における松崎講義録<02.10.14>より）

<『新塾』とは、松崎氏主催で定期的に行われている「JR労研」、つまりJR革マル派幹部達の勉強会的性格の集まりのようである。

ここで松崎氏が「株主総会までの間に会社が当然、反省をして『悪うございました』と言って来るのが常識…」だと、居丈高に問題にしている内容は、JR東日本東京支社当局が行った「管理者人事」（いわゆる「阿部真喜雄」課長昇進問題）である。そして、世間一般の常識では、平社員ならいざしらず、誰を担当課長に登用するか、つまり「管理職者人事」は経営側の専権事項である。>

《国鉄改革の完成に向けて（宗形明著）182ページ～183ページより抜粋》